

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス

海外情報

No.8

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月15日
情報ソースの調査日	2020年5月3日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月5日
日本語タイトル	COVID-19 の重症度に対する COPD と喫煙歴の影響：系統的レビューとメタ分析
情報ソース	Journal of Medical Virology
情報のカテゴリー	既存の COPD 患者と喫煙者、重度 COVID-19 の有病率、メタ分析
発信地	中国
DOI	10.1002/jmv.25889
URL	https://doi.org/10.1002/jmv.25889
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 依存症は COVID-19 の重症度に関連しているとされている。 ・ 2019年12月から2020年3月22日までを対象にメタアナリシス(オンライン文献検索 2002例の患者)にて既往の COPD と進行中の喫煙歴のある患者における重度の COVID-19 の有病率を調査。 ・ 重度の COVID-19 の発症するリスクに関して既往の COPD がある場合:約4倍、喫煙者:約2倍とリスクが高かった。COPD 死亡例 6/10 例中(66%)80/233 例中(34.3%)。※COPD 既往症患者における緩和戦略の緊急の必要性を強調している。 ・ COVID-19 と COPD の急性増悪の鑑別が困難であり、対応が遅延や不適切な医学的介入になりやすい。ICU や死亡率は COPD に関して有意であった。 ・ 喫煙者は重度の COVID-19 へのリスクを高くしたが報告数が少なく進行に及ぼす影響については議論の余地がある(適性ある報告が少ないことや全ての研究で喫煙期間の報告が無い、関連性に関して有意な結果が得られていない)※喫煙歴と COVID-19 は複雑な関係がある ・ 継続喫煙と脱喫煙の影響については、今後もさらなる評価が必要な領域である(本研究限界として、ケースシリーズで殆どの症例がアジア圏であること、無作為化比較試験や前向き研究でないこと) ・ COPD と進行中の喫煙歴は、COVID-19 の進行と転帰の悪化に起因している
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか?	COVID-19 の重症度に対して既往に COPD があることが知らされており、罹患しないよう予防的に介入する必要がある。予防理学療法分野として介入できる部分である。